



発行所
 公益社団法人 国民文化研究会
 （九州←→東京←→全国）
 東京都渋谷区東1-13-1-402
 振替 00170-1-60507
 電話 03-5468-6230
 F A X 03-5468-1470
<http://www.kokubunken.or.jp/>
 E-mail: info@kokubunken.or.jp

月刊「国民同胞」編集部
 毎月一回10日発行
 購読料 年間2000円

関西信和会のオンライン輪読会

―自宅に居ながら参加できる「思はぬ利点」―

北村公一

昨年の令和二年一月に神戸で開催した「伊勢雅臣先生講演会」には五十名の参加があったが、そのうちの八名ほどの方にその後の毎月の輪読会に新たにご参加いただいております。コロナ禍により止むなく、オンラインでの開催となつてゐるが、従来のメンバーと合せて毎月十三名前後の参加者があり、有難いことである。

輪読のテキストは本会会員が執筆した『語り継ぐ日本の思想』（明成社刊）である。本書は「聖徳太子」から「岡潔」まで、我が国史上の偉人の言葉や古典の原文、及びその解説がそれぞれ三頁にまとめられてをり、毎回三時間の輪読でちやうど一編を読み終へるのに最適となつてゐる。

輪読はまづ「正確に読む」ことから始まる。文章を一段落づつ、順番に声に出して読み、読み間違ひなど

があればお互ひに指摘して正す。次に意味を正確に捉へる。勿論原文は難解なものもあるので、皆で意見を出し合ひ、正しい解釈に辿り着く。しかし意味が分つたからと言って、書かれてゐることが腑に落ちるとは限らない。そこは読む者の体験、思索による「分り方」があつて、人それぞれである。例へば「二宮尊徳」を輪読した時、ある男性は次のやうな感想を書かれた。

《人、天地の間に生じ…元来我が身、我が心は天地のものにして我がものにあらざ。この天地という言葉もスケールが大きすぎて抽象的概念のように思え、実感が得られなかつた。しかしIさん(女性)が「この言葉はよくわかります。子育てをしている時や植物を育てている時、自分の力ではどうにもならないことがよくあります。そんな時、大自然

の力のはたらきを感じます」と言われたのを聞き、なるほどそうかと得心した。作物が育つには日射、降雨、気温などの天の力、そして肥沃な土壌という地の力が不可欠である。この天地の力、大自然のはたらきの中で人は生まれ、生かされている。だから我が身、我が心も天地のものであつて、我がものではない。生涯農業に心血を注いだ尊徳にはこれは自明のことであり、日々痛感していたことであらう。》(仮名遣ひママ)

また、これまで抱いてゐたものの意味を判然と悟られることもあつた。次は「親鸞」を輪読した時のある女性の感想である。

《この歳になつて、お葬式でもないのにまた和讃を唱える日が来るとは思いませんでした。困難なこと、怖いことに出会ふと、私はすぐにお題目を唱えます。これは信仰心の現れなのか、そういう家で大きくなつたからか、何故だかよくわかりませんでした。しかしこちらで皆様と学ばせていただいで、お釈迦様が仏教を開かれたこと、それを聖徳太子が日本の国造りの柱にされたこと、聖徳太子のお導きで、親鸞様が法然様に出会われたこと、数々のご縁によつて、私のなかに日本人が大切に生きてきた心情が注ぎ込まれていて、自分の計らいではなくお題目を唱えてゐるんだと確信しました。幸せであり

がたいことです。》(仮名遣ひママ)

この方は幼少のころから仏教に親しまれてをり、実際に「和讃」を唱へて披露して下さつた。意味もよく分らずに記憶してゐられた「和讃」に込められた仏の教へに、輪読を通じて到達されたといへよう。

しかしここまで順風満帆だったわけではない。これまでの五名前後での輪読に慣れてゐたので、参加者が十名を超えて、しかもオンラインでの輪読にもどかしさを感じてゐた。一通り感想を述べるだけで時間が来てしまひ、例へばある方の感想に対して、自分もさう思ふ、或いは自分が少し違ふ、といふやうな遣り取りができず、深まりがない。そこで、いろいろと考へて「輪読会を二つに分けて開催してはどうか」と提案したこともある。だが回を重ねるにつれて、またオンライン会議に慣れた若手会員の上手いリードもあつて、だんだんと重層的なやり取りもできるやうになつた。

オンラインになつて良かったことは出席率が高い事である。皆さんご自宅に居ながらにして気軽に参加いただけるといふ、思はぬ利点があつた。二月からは学生時代に輪読会に来てくれた方が、就職した東京から参加してくれるやうになつた。これからも賑々しく、学びを深めていきたい。(税理士法人勤務)